

平成24年10月24日

報道機関各位

公益財団法人 東北活性化研究センター
「東北活性研実践セミナー」の開催について（ご案内）

当センター（会長 高橋宏明）は、「知をつなぎ、地を活かす」を活動理念として、総合的な地域整備や地域・産業活性化に関する調査研究、プロジェクトの発掘・支援などを通じて、東北地域の活力向上と持続的な発展に寄与していくことを目指しております。

このたび、当センターでは11月6日、青森県観光物産館アスパムにおいて『「農業ビジネスに新しい風を」～農山村女性起業家の取り組みに学ぶ～』と題した、東北活性研実践セミナーを開催いたします。

当センターでは平成23年7月に「東北地域の農山村における女性起業家の事例調査」としてまとめました。東北地域は少子高齢化による人口減少が最も早く進んでいる地域であり、地域が活力を維持していくためには女性をはじめ、潜在的な能力を有する人々が活躍していくことが必要です。本報告書では、東北6県および新潟県の農山村における女性起業家について起業の背景、事業内容、収益確保や組織運営面での工夫などを掲載しております。

近年、地域の食材の商品化、レストランや民宿の経営などで女性が、その才能を発揮して成功している事例が多く見られます。本調査研究を基に、農山村地域でのこうした先駆的な取り組み事例を学び、新たな創業を促進することが地域社会のサステナビリティ（持続可能性）を確保し、地域コミュニティの再生を目指す契機となると考え、今回のセミナーを開催することといたしました。

つきましては、本セミナー開催にあたり、ご来聴ならびに貴社報道におけるPR、取材等につきましてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご取材の際は下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

以上

<添付資料>

- ・東北活性研実践セミナー リーフレット（申込書）
- ・講演者プロフィール

<ご連絡先>

(公財)東北活性化研究センター 地域・産業振興部 鈴木
電話 022-222-3357 Fax 022-225-0082
ホームページ：<http://www.kasseiken.jp>

「農業ビジネスに新しい風を」

～農山村女性起業家の取り組みに学ぶ～

東北の農業は、昨年3月に発生した東日本大震災により大きな被害を受けました。現在、地域は一丸となって復旧・復興に取り組んでいます。こうしたなか、農山村女性起業家のさまざまな取り組みが地域の元気となり、農業ビジネスに新しい風を送り込んでいます。そこで、今回、地域で実績をあげておられる女性起業家（取り組み内容は「東北発！女性起業家28のストーリー」（カナリア書房）に紹介されています）をお招きし、東北が元気になるための方策を考えたいと思います。

◆日 時：平成24年11月6日（火）13:30～16:30（開場 13:00）

◆会 場：青森県観光物産館 アスパム 5階 「あすなろ」

（青森市安方 1-1-40 電話 017-735-5311）

◆スケジュール

1 講演

テーマ：「農山村女性起業家に期待すること」

講 師：太田 実氏（道の駅 上品の郷（じょうぼんのさと） 駅長

/（株）かほく・上品の郷 代表取締役）

◇太田実氏は、元・宮城県河北町長。道の駅「上品の郷」は宮城県石巻市に位置し、平成17年オープン。本年、プロが選ぶ道の駅の人気NO.1の評価を得た。

2 パネルディスカッション

テーマ：「農山村女性パワーが東北の元気をつくりだす」

パネリスト 佐藤 芳子氏（りんご工房 代表・青森県弘前市）

◇りんごによる染め物とジャムで起業。

若生 和江氏（やまんば工房 代表・岩手県江刺市）

◇地元の旬の食材をふんだんに使った「やまんば汁」で起業。

アドバイザー 太田 実氏（道の駅 上品の郷 駅長

/（株）かほく・上品の郷 代表取締役）

コーディネーター 志賀 秀一氏（（株）東北地域環境研究室 代表）

◆定員：先着80名様（参加費：無料）

◆主催：公益財団法人 東北活性化研究センター

■ お申込は下記にご記入のうえ、10月31日（水）までにFAXにてお送りください。

お申込・問い合わせ先：（株）東北地域環境研究室（担当：島谷）

〒980-0021 仙台市青葉区中央 2-9-1 河西ビル 電話 022-212-1105

※切り取らずこのままお送りください。

FAX 022-212-1106

お名前	
会社、団体名・役職 （お勤めの方）	
ご住所	
電話番号	

※ご記入いただいた情報は、本事業以外には使用いたしません。

○講演者プロフィール

・講師：太田 実氏

(道の駅 上品の郷 駅長／(株)かほく・上品の郷 代表取締役 ／宮城県石巻市)

全国農協青年連盟委員長、旧河北町議会議員を3期務めたあと、平成元年から16年まで旧河北町長を4期務める。4期目に道の駅構想にかかわり、平成17年、道の駅「上品の郷」設立。道の駅の駅長と(株)かほく・上品の郷 代表取締役に就任、現在に至る。「直ぐやる、必ずやる、できるまでやる」をモットーに、「地元のリピーター客を給料、観光客をボーナス」と考えた経営を徹底して行い、創立7年で「日本一の道の駅」と称される地域の拠点をつくり上げる。

・パネリスト：佐藤 芳子氏（りんご工房 代表 ／青森県弘前市）

1989年頃から農閑期を利用して、りんごジャム作りを手がける。仲間と取り組んだ桜染めをきっかけに、りんごの剪定作業で生じた廃材を利用した草木染めに取り組み始める。特にりんごの草木染めは魅力あるお土産品にするために京都まで出向き、技術を学ぶ。2001年に「りんご工房」を立ち上げ、りんごジャム、りんごの草木染めの販売を行う一方、りんご草木染め体験も行っている。また、りんごの草木染めを継承する後継者を育て、魅力ある工芸品として定着させるべく、取り組んでいる。

・パネリスト：若生 和江氏（やまんば工房 代表 ／岩手県江刺市）

2000年頃から地域の女性数名と本格的に漬物加工の勉強を始める。その後、弁当の仕出しの依頼を受けるようになる一方、「食べて元気になってもらえる事業がしたい」という思いもあり、2007年に「やまんば工房」を立ち上げる。同年、新郷土料理「やまんば汁」で食の匠の認定を受け、食育や料理教室の活動を行っている。また、2003年から岩手県環境アドバイザーとしての活動も行っており、環境学習の実践にも力を注いでいる。

・コーディネーター：志賀 秀一氏

(株)東北地域環境研究室 代表 ／宮城県仙台市)

北海道生まれ。1975年、北海道東北開発公庫（現・日本政策投資銀行）入庫。その後、観光施設「山寺風雅の国」常務取締役を経て、2001年から現職。観光を軸とした地域づくり、まちづくりに取り組んでいる。

主な公職は、宮城県みやぎ観光創造県民会議座長、大分県竹田市仙台事務所長、日本観光研究学会常務理事など。